

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立幸崎小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	51	50.7	43	52	48.7
	本年度結果 偏差値平均	54.7	54.8	48.5	46.7	52.9	50.5
算数	前年度結果 偏差値平均	/	51.5	50.3	42.7	49.5	48.5
	本年度結果 偏差値平均	60.1	56	53.3	48.9	55.5	53.6
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	37.2	42.7	41.8
	本年度結果 偏差値平均	/	/	46	44.7	52.6	47.2
全体	前年度結果 偏差値平均	/	51.2	50.5	40.9	49.5	47.5
	本年度結果 偏差値平均	57.4	55.4	49.2	46.7	53.7	51.2

②学習環境分析 Q-U【1回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)	8	7	10	12	7	12	56
	割合(%)	57	100	76.9	54.5	35	80	57.1
二次支援	人数(人)	5	0	3	7	13	2	30
	割合(%)	36	0	23.1	31.8	65	13.3	30.6
三次支援	人数(人)	1	0	0	3	0	1	5
	割合(%)	7	0	0	13.6	0	6.7	5.1
学習意欲	学年(点)	11	9.9	10.6	8.9	9.8	9.5	10
	全国(点)	10	10.0	10.0	9.6	9.6	9.6	9.8

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	60 (91)	57 (81)	/
本年度結果 (対県比)	75 (112)	66 (103)	75 (113)

④学習環境分析 Q-U【2回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)	8	7	10	12	7	12	56
	割合(%)	57	100	76.9	54.5	35	80	61.5
二次支援	人数(人)	5	0	3	7	13	2	30
	割合(%)	36	0	23.1	31.8	65	13.3	32.9
三次支援	人数(人)	1	0	0	3	0	1	5
	割合(%)	7	0	0	13.6	0	6.7	5.4
学習意欲	学年(点)	10.1	10.3	10.7	8.8	9.9	9.9	10.0
	全国(点)	10.0	10.0	10.0	9.6	9.6	9.6	9.8

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語科の課題は、目的に応じて工夫して書く(22.5%)、考えや主題を持って伝え合う(23.3%)、主題や構成を読み取る(37.8%)であった。 ●算数科の課題は、4年の表と折れ線グラフ(37.4%)、5年の単位量当たり、速さ(46.7%)、4年の平行・垂直と四角形、面積(47.2%)であった。 ●理科の課題は、3年の乾電池と豆電球(28.8%)、4年の天気と気温・雨水と地面(39.1%)、4年の水の温度による変化、5年の物の種類や水の温度と溶ける量(48.0%)であった。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語科の課題は、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける(33.3%)、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる、表現の効果を考える(60.0%)であった。 ●算数科の課題は、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方の考察(13.3%)、示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないこと(20.0%)、正しいプログラムに書き直す(40.0%)であった。 ●理科の課題は、光の性質(33.3%)、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述、水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解(60.0%)であった。
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「学級内の規律と人間関係が不安定な要素をもった学級集団」が4学級であった。 ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童が学校全体で5人いる。 ●学習意欲が全国比よりも低い学級が3学級あった。 <p><各学級の強みと弱み></p> <p>○強み 低学年…仲の良い友達がいる、何事にもあきらめない、自分の仕事に責任 高学年…授業中に質問、発言好き、遊ぶときのアイデア、自分から誘う</p> <p>弱み 低学年…学習意欲、規律、人間関係、乱暴な言い方、仲間に入れてもらえない 高学年…嫌なことを言われたりからかわれたりする。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習意欲が1回目の数値より伸びている学年は増えている。本校が目標設定した全国平均1P以上は達していない。 ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童が学校全体で5人いる。 <p>○ほとんどの学級で、1回目のQUの結果から、学級の雰囲気や友達関係がよくなってきたといえる。「親和性なまとまりのある学級集団」1回目のQUでは1クラスであったが、2回目では5クラスになった。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>1 全教諭が授業改善に取り組むことで、H-QUの学習意欲を全学年全国平均+1P以上にする。</p> <p><今後の取組></p> <p>①めあてとまとめ一文で ②使うぞ！幸崎6 ③個人思考with根拠</p> <p>2 幸崎検定テストを計画的・継続的に取り組むことで、全児童が検定テストで100点取ることができるようになる。</p> <p><今後の取組></p> <p>④幸崎検定！めざせ全員100点</p>	<p>①めあてとまとめが一文でつながるように、全教諭が教材研究を丁寧に行い、課題設定から終末までの授業づくりを意識し、めあてを「○○とは？」「○○するには？」と提示して取り組む。</p> <p>②自分の考えを組み立て表現するために、6つの思考スキルを授業において積極的に活用するとともに、校内研修で効果的な活用について協議する。</p> <p>③思考力を高めるために、根拠に基づいた個人思考を授業の中で確実に実施する。また、ノートを交流する校内研修を行う。</p> <p>④全学級でNRT類似問題の検定テストを行い、目標を達成しなかった児童は、全職員(複数対応)による補充学習を徹底する。(モジュール)</p> <p>⑤自律した学習者を育てるために、グループ学習を軸とした授業づくりの研修を行い、幸崎モデルとして来年度は全学級で実施。</p>	<p>①②③各授業時間(一人2回の研究授業)+模擬授業及び日々の授業</p> <p>④学期ごとに日程を決め実施</p>	<p>・Q-U2回目(7月に実施)の学習意欲の数値、全学級全国平均</p> <p>・全学年、学期末テストの平均点83点以上</p> <p>・前学年や学年の課題の類似問題(テスト)の正答率 全学年80%以上</p> <p>・検定テスト 得点率80%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級が親和性を高める活動に取り組むことで、H-QUの結果が全学級「親和的なまとまりのある学級集団」にする。</p> <p><今後の取組></p> <p>自らキラリ とともにわくわく G・T・5！</p> <p>①G:学級チャレンジ ②T:縦割り班活動 ③5:幸崎5カ条</p>	<p>①学級全員で目標達成に向けて挑戦する意欲を高めるために、全学級が学級の課題を踏まえた「学級チャレンジ」を設定し振り返り活動を重視する。</p> <p>②仲間意識や自己肯定感を高めるために、また、全職員で全校児童を育てるという意識を高めるために、縦割り班活動を積極的に実施し、PDCAで評価する。</p> <p>③幸崎5カ条を意識化行動化できるように、全校で「幸崎5カ条」を毎朝唱えたり、学級チャレンジと関係づけたりする。また、全学級が構成的グループエンカウンターを行う。</p> <p>さらに、自己肯定感を高めるために児童一人一人に幸崎5カ条カードを持たせ、全職員からの評価活動を行う。</p>	<p>①毎日</p> <p>②学校行事、児童会活動、清掃活動</p> <p>③朝の会、特別活動、帰りの会</p>	<p>・H-U2回目(7月に実施)の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)また、全学級「親和的なまとまりのある学級集団」</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】

○授業改善では①～④の取組により、学習意欲の向上など指標をこえる学年が増えたが、まだ全学年ではない。来年度は、グループ学習を軸とした授業づくりを行い、学力・学習意欲の向上をめざす。

○学級・学習集団づくりについては、6学年中5学年において目標を達成した。来年度は全学年になるよう、縦割り班活動など多様な学びを展開し、親和性を高めていく。

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値	55	60	60	55	50	56
	偏差値平均	55	60	60	55	50	56
算数	目標値	55	60	60	55	50	56
	偏差値平均	55	60	60	55	50	56
理科	目標値	/	/	50	50	50	50
	偏差値平均	/	/	50	50	50	50
全体	目標値	55	60	56	53	50	54
	偏差値平均	55	60	56	53	50	54

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	
目標値 (対県比)	68 (90)	68 (90)	